戰を起し、內訌を鎭制して、國論を一定す、また幕府及三十六藩の大兵と、四境に戰ひて、大捷を博し或は九州四國に潛行して、志士と謀り、或は硯海の風月に優游し、詩酒の間に放浪して、國事を議す、好で人の急難を救ひ、勇で己れの危險を脫す、斯の如き電光石火中にあるも、猶ほ能く一片の誠意を留む、常に義理を重んし、生命を輕じて、利祿を拋つこと、弊屣を脫するより易し、程明道か富貴不レ淫貧賤樂男兒到レ此是豪雄の意氣あり。

高杉活達の天資を抱き、事に觸るゝや、猛烈にして九牛を呑むの豪量あり、然るに平生人に接すれば虛心溫恭、一の年少者と雖も、懇辭措かず、務めて他人の抱負を言盡さしむ、假令權勢富豪たりとも、場合に依りては、一言を假借せず、彼の對手の肩書に顧みて、態度を變ずるが如き弱者にはあらず、高杉は何處までも、回向院式なり、苟も年齡財力の多少を問ふを屑しとせず、常に天下の人を同一視して實力競爭に打勝つものを、眞成の優者と爲せるなり、所謂末世の豪傑の如く、名利の爲に辭色を衒ひ節操を鬻ぐの輩に比すれば、人格の高低、固より霄壤啻ならず。

高杉の心性は、眞個に武士的なり、精神行爲の國家に貢獻する所、如何に公明なるか、正大なるか、此澆季の世に當りては、取て汚俗の防腐劑となすへく、志士の興奮劑となすへし、雷雨地を擊ち、大風樹を拔くの夜、偶々燈下に端坐して、高杉の事を語れば、英風自から人の襟を正さしむ、然れども余や眼高く手低し、文章練磨を闕き、語氣人を動すに足らずと雖も、唯願ふ所は、高杉の行事を擧げて、懦夫のために强劑を投じ、只管薄志弱行者を、鞭撻する所あらんとす、甘瓜苦蔕專ら讀者の採擇に任す、書中の一斑、幸に世道人心に補益する所あらは、著者何の光榮か之に加へん。



「道」第68号(1913.12)

# 宗教講話（其十六）

## マホメット及び其宗教

大川周明

### 四　回教の聖典

回教の聖典をクラーンと稱す。クラーンとは讀む可きものゝ意味にして、啻に聖典全部の名なるのみならず、其の一章一句も亦クラーンと呼ばる。全篇を通じて百十四章、各章の長短極めて一ならず、その短かきは僅々數節より成り、その最も長きは二百八十六節より成れり。クラーン自身の語る所に由れば、天上に一切の知識を收めたる「母書」又は「祕書」あり、天使長がブリエル、大神アラーの命を奉じ、時に應じて其片鱗をマホメットに傳へたるもの卽ちクラーンなり。從つて其の一言一句も悉く神に出でたるは言を俟たず。回教徒のクラーンを聖視するの厚きは殆ど吾等の想像を超え、一切の學術、一切の智慧、及び一切の法律の淵源なりと信ぜり。

クラーンは當初より現存の秩序と體裁とを有せしに非ず。始めマホメットの天啓を受くるや、之をその信者に傳へ、信者は之を暗誦し、若くは貝葉、白石、皮革、羊及び駱駝の肩胛骨に書寫せしに過ぎず從つてマホメット當時に在りては僅かに數節若くは數章を記せる雜多の斷片の存在せしあるのみ。信者の中にはクラーンの大部分を暗誦せるもの少なからざりしとの事なれど、その全部を暗誦せん事は何人も能くす可きに非ず。且口より口に傳はり行く間に

は種々なる訛傳のなかりしを保す可からず。而して事情かくの如くなりしに加へて、マホメットの一度び沒するや、直ちに教主繼承の爭亂を生じ、親しく彼に師事してクラーンに通じたりし故老にして、命を戰場に落すもの甚だ多かりき。於是オマルはクラーンの散佚してまた收拾す可からざるに至る可きを憂へ、第一世教主アブー・バクルに奬むるにクラーンの集緝を以てしたり。バクル直ちに其の言を容れ、マホメットの書記なりしザイド・イブン・タービットに命じて其事に從はしむ。ザイド卽ち主として故老の口よりクラーンの章句を聽取し、白石、骨片皮革等に記されたる斷片を集め、始めて一卷のクラーンを集成し、書寫して之をバクルに與へたり。此クラーンはバクルの後に教主となりしオマルに傳へられ、オマルは更に之をオトマーンに傳へたり。

ザイドのクラーンは多くの回教徒によりて複寫せられ、亞拉比亞の各地に行はるゝに至りしが、オトマーンが教主の位に卽ける頃より學者の間に多くの異なれる解釋を生じ、各々其の見る所に從つてクラーンを改正し、茲に種々なるクラーンの現出を見るに至れり。於是オトマーンは全回教徒に通ずる聖典を欽定するの必要を感じ、更にザイド及び他の三名に命ずるに、オーソリテーたるべきクラーンの編輯を以てしたり。彼等は命を奉じて能ふ限り流布のクラーンを蒐集し、彼此を參酌、異同を考覈して茲に新たに一卷のクラーンを大成して之をオトマーンに獻じたり。オトマーン卽ち之を亞拉比亞の各地に配布して證典たらしめ、同時に他日異論の發生を防止せんために一切の自余の寫經を滅却し終れり。

今日吾等に傳はれるものは卽ちオトマーンのクラーンなり。

クラーンの各章を整頓するに當りて其內容に從ひて之を前後に排列する事は不可能なりしならむ。何者同一の問題が多くの章に繰返され居るを以てなり







また年代に從つて排列する事も困難なりしならむ。何者古き啓示は其の年月を明かにし難く、且一章の中に異なれる時日に於て受けたる天啓が結合し居る事あるを以てなり。かくてザイド等は唯だ長短を標準としてクラーンを排列し、其の長きを前にし、短かきを後にせり。されば今日吾等の有するクラーンは決して年代順に記載せられたるものに非ず、從つて之を讀んで其眞意を解する上に尠なからざる困難を感ずる也。然れども熱心なる學者の倦まざる研究によりて各章の成立年代は次第に判明し來り、之によりてマホメットの精神的發展の跡を辿り得るに至れり。吾等は亞拉比亞研究のオーソリテーたるネルデケの『コラーン史』によりて、左の如くクラーンを排列し得。

第一期卽ちマホメットが豫言者として現はれしより五年間に受けたる啓示は、九六、七四、一一一、一〇六、一〇八、一〇四、一〇七、一〇二、一〇五、九二、九〇、九四、九三、九七、八六、九一、八〇、六八、八七、九五、一〇三、八五、七三、一〇一、九九、八二、八一、五三、八四、一〇〇、七九、七七、七八、八八、八九、七五、八三、六九、五一、五二、五六、七〇、五五、一一二、一〇九、一一三、一一四、一の各章。

第二期卽ち第五及び第六年の間に受けたるは、五四、三七、七一、七六、四四、五〇、二〇、二六、一五、一九、三八、三六、四三、七二、六七、二三、二一、二五、一七、二七、一八の各章。

第三期卽ち第七年よりヒジラに至るまで受けたるは、三二、四一、四五、一六、三〇、一一、一四、一二、四〇、二八、三九、二九、三一、四二、一〇、三四、三五、七、四六、六、一三の各章。

第四期卽ちヒジラ以後メヂーナに於て受けたるは二、九八、六四、六二、八、四七、三、六一、五七、四、六五、五九、三三、六三、二四、五八、二二、

四八、六六、六〇、一一〇、四九、九、五の各章となす。

クラーンの内容は單に宗教のみならず法律、軍事政治、傳說、哲學等の諸方面に關し、極めて雜駁なるものなり。蓋しマホメットは神政々府の首長として、軍隊の指揮官として、裁判官として、風紀の監督者として、宗教的儀式の指導者として、一切の人事に處する間に、時に應じ機に臨んで、天使ガブリエルの口より受けたる啓示に從つて行動し、而して其啓示を記せるもの卽ちクラーンなれば、內容の諸方面に亙れるも當然の事と云はざる可からず。

## 四　回教

吾等がマホメットの宗教を呼んで回教又は回々教と云ふは、昔支那人が此宗教を奉じたる回訖人と始めて交際せる時、回訖人の宗教と云ふ意味にて回教と言ひたりしを其儘に襲用するまでなり。此語は最も廣く行はれ居るが故に今更改むる必要もなけれど右の如き次第なれば言葉其者には何の意義もなしと知る可し。元來マホメットの宗教は亞拉比亞語にて「イスラーム」と呼ばる。イスラームとは歸命又は沒我の意味にして、全然神意に從ふ教と云ふ事なり。

回教の信仰は極めて簡潔にして之を約すれば下の四ケ條に過ぎず。

第一。神は唯一なり、そは善にして正義の神なり

第二。靈魂は不滅なり。

第三。人間の必ず守る可き神の掟あり。

第四。現世の行爲は來世の因をなす。

而して回教の嚴格に守る可き掟とは下の五事なり

第一。潔齋卽ち肉體の淸淨。　一日五回。

第二。祈禱卽ち精神の淸淨。　一日五回。

第三。布施卽ち友愛。第十二月に於て十一ケ月間の所得の百分の二半を施こす。





第四。斷食卽ち情欲の克服。一ケ年に一ケ月間、マホメットが天啓を受けたるラマダーンの聖月に於て行ふ。ラマダーン月は太陽曆の九月に當る。

第五。メッカ巡禮。資力堪えざる者は此義務を免るゝを得。

而して飮酒及び賭博の二事は絕對的に禁止せらる。

回教の要は殆ど右に盡きたりと言ふも可なり。神の唯一なるを信じ、マホメットを以て其の使者となし、五事の義務を守れば卽ち回教徒たり。その傳播の速かなりし一因は教義の爾く簡單なるに存せり。されど吾等は今少しく此骨子に皮肉を附して回教の生きたる姿を彷彿せしめざる可からず。

クラーンの記す所によれば獨一の神アラーの周圍には無數の天使あり、常にアラーを讃美し其命を奉行す。其體は光明より成り純潔無垢にして體慾なし諸天使の中に四體の天使長あり、第一はマホメットにクラーンを傳へたるガブリエル、第二は猶太人を守護するミカエル、第三は喇叭を奏して最後審判を萬人に告知するイスラーフィル、第四は死を司るアスラエルなり。地獄を支配する天使をマーリクと呼び、天國の門衞をリドワーンと云ふ。一個の人間には常に二體の天使左右に付添ひて其の一切の行爲を監視す。またイブリス及びシャイターンと名くる兩惡魔あり、始め天使なりしも、後に天堂より追放せられたるものなり。

天使の下には火にて造られたる精靈あり。不思議の神通力を有すれども人間と同じく體慾を具し、且人間と同じく死すべき者なり。精靈の中にも信者と不信者とあり。不信者は往々にして天上に上りアラーの計畫を盜み聽かんとするも常に天使の爲に燒いて灰燼に歸せしめらる。人間はもと神によりて造られたる最勝の存在者として天使及び精靈の上に位せしが、アダムの墮落によりて宿罪の爲に累はされ、

罪に赴くの性情を得たり。而して常に惡魔の爲に誘惑せられて、無智と罪惡とに沈淪せんとす。然るにアラーの大慈大悲なる、深く人間の墮落を憐み、豫言者を下して之に敎ゆるに眞理を以てし無智と罪惡とを厭離せしめんとするなり。アブラハム、モーゼイエスは皆な是の如き意味に於ての豫言者にして、その最後に出でゝ最も偉大なるをモハメット自身となす。是の如く豫言者の相繼いで起るは、始め其の敎えたりし赤裸々の眞理が年月を經る間に種々なる厭ふべき粉飾を施こされて本來の面目を失ふに至るを以て、更に第二の豫言者を下して永遠の純淨なる眞理を提唱せしめ、次第に相傳へてマホメットに至りしものなり。從つて若しマホメットによりて復興せられたる眞宗敎がまた外物の爲に蔽はるゝが如き事なれば、アラーは更に新しき豫言者を人界に下して之を革新せしむ可し。

自由意志に關する問題に就てはクラーンの說く所甚だ明瞭ならず。或は意志の絕對的自由を高調して天國と地獄との鍵を人間自身の掌中に握らしめ、或はまた人間の一切の運命は豫め神の定むる所なるが如く說けり。マホメット自身は『クラーンの記す所に些か疑惑を容れず』と信じたりしも、宿命說竝に自餘の問題に關する問題は信者の間に異なる解釋を惹起し、爲に激烈なる宗敎戰爭と多くの宗派とを生ずるに至れり。

回敎は一夫多妻を承認し且奴隷制度を認容せるの故を以て屢々猛烈に攻擊せらる。されどマホメット當時に於ける亞拉比亞の社會狀態を知るものは、寧ろ彼が多妻主義に制限を加へて四妻四妾に限り、姦淫を禁じて大罪とし、奴隷を厚遇す可き事を敎えたるを多とせざる可からず。

天寒人寒針頭削鐵
滴水滴凍畫餅充飢



# 日露戰爭と媾和（十二）

石川半山

## 滿洲紛擾と露國

義和團が未だ鎭定しない內に、滿洲一帶に排外熱が高まつたことは、露國に取て大打擊で有つた、元來滿洲は淸國發祥の地で有るから、其の兵備も十分に配置して有つたのだ、明治三十二年の六月に調査した所で、四萬三千の兵は滿洲に配置して有つた、卽ち盛京省が一萬七千、吉林省が一萬三千、黑龍江省が一萬二千と云ふ樣で有つた、此の外に滿洲の八旗兵と云ふ者が三省合せて四萬四千人有つたが、それが義和團勅發後の攘夷の勅命を受けて動き出したのだから、其の一時の勢ひは猖獗なる者で有つた、特に此の秩序の壞亂に乘じて、馬賊が跋扈跳梁し、其の外各所の土匪が荒れ出したのだから、露國は隨分手古摺つたので有る。

### 各地の戰鬪

一番最初に奉天に於て暴動が起つた、それから鐵嶺へ蔓延した、次で遼陽營口を初め南滿州一帶にも起り黑龍江省にも起り、吉林でも始まつた、勿論支那人の事だから規律もなければ訓練もなく、出沒隱現、露兵が來れば逃遁して、壓迫が薄くなると又出て來る、鐵道を破壞したり、敎會堂を燒いたり露人を殺したり、色々の亂暴をした、諸所で小戰が開始されて互ひに死傷が有つた、奉天の守備隊長ワルフスキイ中尉が淸國の官兵の爲めにヒドい目に逢ひ、